科目ナンバリング	U-LAS01 20008 SJ38				
授業科目名<英訳>	日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠ Introductory Seminar on Politics and Culture in Ancient and Medieval Japan I	担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉江 崇		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

【日本古代・中世史研究書入門】
１冊の研究書を受講者全員で輪読し、日本の政治・社会・文化に対する歴史的思考力を高めることを目指す。大学生や一般の人を読者層として想定した、簡易で比較的新しい書籍を取り上げるが、記述の背景を調べ、根拠となっている文献史料の原典を読解することによって、記述内容を批判的に検証する。そうした作業を通じて、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨くことを目指す。
今期は、遠藤みどり著『日本の後宮』を取り上げ、日本古代の後宮制度の特質や、天皇と女性との関係の変化について考える。

[到達目標]

古代・中世の日本の歴史に関して正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、提示された学説を吟味して、自分の見解を対置する能力や、歴史像を組み立てるための技術を身につける。

[授業計画と内容]

「後宮」という語は、本来、中国の天子＝皇帝の住む前殿の後ろにある宮殿を意味しており、そこに居住するキサキや女官を指す語としても使用された。しかし、日本において天皇とキサキが同居するようになるのは、平安時代に入ってからのことで、奈良時代までの「後宮」は、妃・夫人・嬪という天皇のキサキを指し、内裏外のキサキの宮も「後宮」と呼ばれた。６世紀に倭王位を父系で継承する世襲王権ができると、それを支えるために、天皇の子の〝母〟を公的に囲い込む形でキサキ制度がはじまった。７世紀後葉の天武天皇の頃には、次期皇位継承者として選ばれた皇子女の〝母〟を皇后とする皇后制が、皇太子制とともに成立することとなる。このように、日本のキサキ制度は、夫婦関係ではなく、親子関係を軸に整備されたものだが、その後、９世紀前葉の嵯峨天皇の頃には、キサキの増加を背景として、キサキと女官とが内裏内に集まる「後宮」が誕生する。天皇との同居の開始したことは、キサキが、〝母〟としてよりも〝妻〟としての側面を強くしたことを意味している。また、皇子女の扶養が、〝子〟に対する国家からの直接給付に変わったことで、天皇の〝父〟として側面が強まっていくこととなる。
遠藤みどり著『日本の後宮』を輪読しながら、日本古代の後宮制度の特質や、天皇と女性との関係の変化について把握する。あわせて、根拠とされる資料を分析し、内容の可否を検討する。

第１回　イントロダクション
第２回　後宮とは何か
第３回　キサキの誕生（１）
第４回　キサキの誕生（２）
第５回　キサキの誕生（３）
第６回　優遇されるキサキたち（１）
第７回　優遇されるキサキたち（２）
第８回　優遇されるキサキたち（３）
第９回　急増するキサキの再編（１）

日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠ(2)へ続く↓↓↓

日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠ(2)

第１０回　急増するキサキの再編（２）
第１１回　急増するキサキの再編（３）
第１２回　埋もれていく〝女性たち〟（１）
第１３回　埋もれていく〝女性たち〟（２）
第１４回　埋もれていく〝女性たち〟（３）／天皇と後宮
《期末試験》
第１５回　フィードバック
※上記の各回の内容は取り上げる書籍の目次によるものである。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での報告および発言・５０点）と期末試験（レポート・５０点）の合計で成績評価する。

[教科書]

遠藤みどり『日本の後宮　天皇と女性たちの古代史』（中公新書）ISBN:978-4-12-102870-9（2025年刊行、1000円＋税）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

全体の進行をあらかじめ通知するので、各回の輪読個所を読み、授業内容を想定しながら予習をすること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業はゼミ形式で、発表および質疑への参加が必須である。
１人１回以上の発表を行ってもらうことから、履修者の人数制限を実施する。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部